



押仲

多賀会長題字

【会長のご挨拶】



押上一丁目仲町会
町会長 多賀康之

新年明けましておめでとうござい
す。本年もよろしく願います。
とはいえ、新年早々に能登半島地震
が発生し、多数の方が亡くなり、ご
冥福をお祈りすると共に、被災した
方にはお見舞い申し上げます。いち
早い復旧、復興を切にお祈りいたし
ます。昨年は関東大震災から百年と
いうことで災害への対応について考
える年ではありましたが、今年は年
明けからこの能登半島地震により、
防災意識を改めて認識した次第です。
さて、昨年を振り返りますと、「ワー
ルド・ベースボール・クラシック」(W
BC)の優勝、米大リーグ・エンゼ
ルスの大谷翔平選手が「満票」でM
VP選出、藤井聡太棋士の八冠独占
など、偉業を成し遂げた明るいニュー
スもありましたが、世界に目を向け
ると、イスラエルガザ侵攻、トルコ・
シリア地震、ハワイ大規模山火事、
ウクライナ戦況膠着など、悲惨な事
件、事故がありました。

押上一丁目仲町会広報部 第九十九号 編集責任者 山本 勝信 令和六年一月三十一日

に、町会会館大掃除にも多数のご奉仕
をありがとうございました。また、防
災訓練は、久しぶりの本所北部連合町
会合同防災訓練を隅田公園で十一月
十二日に予定しておりましたが、荒天
のため前日に中止が決定しました。な
お、十一月十八日に行われました環境
改善功労者感謝状贈呈式では、当町会
が本所消防署から推薦をいただき防
災の部で感謝状をいただきました。こ
の贈呈式では、大井仁さんが美化・リ
サイクルの部で、来栖修二さんが防犯
の部で感謝状をいただいています。今
年の新年賀詞交歓会では、初めての試
みとしてお子様の
参加も歓迎したと
ころ、子供会の参
加もあり、にぎや
かに開催するこ
とができました。
今年度の残りの
活動といたしまし
ては、コロナ禍で活動が停滞してお
りました、墨中地区防災活動拠点会
議も正常に動き始め、二月十八日に
は避難所開設訓練が行われます。三
月一日～七日には、火災予防週間が
始まりますので、さらに火災の恐ろ
しさを認識して注意していただける
とありがたいです。現在回覧で申
し込みを促しております「区民交通
傷害保険」ですが、義務化されてお
ります「東京都自転車条例」の自転
車保険に対応しておりますので、お
申し込みの検討をお願いします。
昨年の定期総会の案内において、

「役員のなり手が少なく町会の運営
が厳しく、縮小(最低限)・廃止・合
併などの案が出ております。忌憚の
ないご意見をお寄せください」とい
う欄を設け、ご意見をいただきました。
議決に反対された理由を書かれ
ていた方もおりましたが、「町会がな
くなったら災害のあった時や区や都
からのお知らせはどうなるのか?」
「合併は範囲が広くなり負担が増え
るのでは」といった意見も含めて、
総じて「縮小してでも何とか存続し
てほしい」という意見でした。
最後に、警察署からの連絡をお伝
えます。特殊詐欺に対する勧告で
す。警察官、金融庁、銀行員、区役
所職員などに成りすまして、キャッ
シユカードを奪い取ったり、ATM
で振り込ませたりするなどの手口が
減っていないようです。ATMでお
金が戻ってくることは決してありま
せん。また、屋根の修理業者や点検
業者として名乗り、強引に契約させ
られて、修理などしないで、お金だ
け取られるという手口です。屋根を
わざわざ壊して、修理代金を取る悪
質なものもあるとのこと。警戒
心を持って行動してくださいとのこ
とで、不審に思ったら、「本所警察に
連絡して、一緒に立ち会ってもらう」
と言って実際に呼んでもらってもい
いですとのこと。
新型コロナウイルスやインフルエンザの感
染者が増えていると、聞いておりま
す。第五類だから、ただの風邪と同
じと思われる方もいらっしゃるかも
しれませんが、感染しないことに越
したことはありません。手洗い、う
がい、引き続きお体を大切に、お元
気にお過ごしください。

【しらとり子供会】 大井 旬江

新年あけましておめでとうござい
ます。

子供会では町会会館の大掃除後に、
町会の細川さんのご厚意でクリスマス
パーティーをすることができまし
た。会社の地下のスペースを貸して
いただき、素敵なクリスマス飾り
の中クリスマスソングもかけてくだ
さり、細川さんの娘さんとお孫さん
も一緒にとても楽しい時間を過ごす
ことができました。

また、細川さんの娘さんからは子
供たちにクリスマスプレゼントを用
意していただき、みんなとても喜ん
でいました。素敵な思い出が増えま
した。ありがとうございました。

今後は、三月に押上一丁目子供会
さんと合同でのボーリング大会があ
ります。毎朝一緒に登校していても
ゆつくり話をするという時間がない
ので、交流を深める良い機会になる
かと思います。



クリスマスパーティーに参加した子どもたち

【賀詞交歓会】

コロナ明けした令和六年一月二十一
日町会会館で開催されました。押仲町
会会員、子供会の役員、子供達も参加
して賑やかに催されました。町会員の
方が十名、子供会の方々が十一名、多
賀町会長を含めた二十二名が参加しま
した。川松都議会議員が飛び入り参加
され、公共工事について解り易く説明
していただき、楽しい賀詞交歓会とな
りました



町会長と町会会員の方々



町会長と子供会の方々



【押上界限の歴史あれこれ】 三八、墨田ゆかりの偉人 慈覚大師円仁

横井 正男

前々号の「押仲」紙で紹介した「牛嶋神社」を、平安時代初期（八六〇年）に創建した慈覚大師円仁（七九四～八六四）は、同じ頃、区役所近くの如意輪寺（吾妻橋一・二）も開山したと伝えられています。更に、東京（江戸）を代表する古刹「浅草寺」（創建六二八年）の、伽藍整備を行い、御前立（注1）を刻みました。その結果、それまでは寒村の寺院であった浅草寺は、信者の層が一層厚くなり栄えました（現在では、年間三千万人が訪れると言われています）。以来、浅草寺では慈覚大師を「中興開山」と呼んでいます（浅草寺由緒）。

仏教というと天台宗宗祖「伝教大師最澄」（七六七～八二二）や真言宗開祖「弘法大師空海」（七七四～八三五）を思い浮かびますが、世界の歴史学者の間では、慈覚大師円仁を「日本仏教の興隆に最も貢献した僧侶の一人」と言われているそうです。今回は、平安時代初期に牛島（現在の向島）両国界隈）の社寺創建をはじめ隅田川沿岸で、民の安寧を祈り、巡錫（注2）



慈覚大師円仁像
比叡山延暦寺 H25 カレンダーより

中、会昌五年（八四五）、武帝の仏教弾圧・廃仏等の危険な社会状況にも遭遇、苦難の旅を終えて、承和一四年（八四七）、多くの仏典・仏画・書写等を携え帰国しました。この間、円仁は日記を欠かさず、見聞した様子を記しました。日記は

し活躍したと伝えられる慈覚大師円仁の足跡を紹介します。

円仁は延暦一三年（七九四）、今の栃木県下都賀郡の壬生家に生まれました。早くに父を亡くし、母と兄に育てられました。九歳の時、近くの名利大慈寺（現存、栃木市岩舟町）の高僧広智に預けられました。

大同三年（八〇八）、円仁が一五歳の時、広智に伴われて、比叡山延暦寺の天台宗宗祖最澄の弟子になりました。最澄の下で厳しい修行に励み勉学に勤しみ、有能な僧侶となりました。二四歳の時、最澄に随行、関東の普及の旅に出ます。

最澄は、学問僧として抜きん出ていた円仁に、後の天台宗を託し、弘仁一三年（八二二）、五六歳で入滅しました。

円仁は、宗祖最澄との約束「東北地方の巡錫」の旅は、その後、全国に及びました。円仁の由緒寺社の数は六百を超えているといわれています。（天台宗祖大法要）

承和五年（八三八）、円仁四五歳の時、求法（注3）僧としての勅命（注4）が下り遣唐使の一員になり唐に渡り、二人を伴い足掛け一〇年の求法と巡礼の旅をしました。途中、会昌五年（八四五）、

「入唐求法巡礼行記と名付けられ、当時の貴重な記録となりました。帰国後も、求法を極め熱心に全国布教活動を行いました。牛嶋神社、如意輪寺、浅草寺、待乳山聖天等の円仁とのご縁もこの頃のことです。

仁寿四年（八五四）、円仁は比叡山延暦寺の三世天台座主（注5）に就任しました。仏教の歴史書といわれている「日本往生極楽記」には、「仏教が中国から伝わってきた半分は慈覚大師によるもの」と記されているそうです。（台泉納談抄）

貞観六年（八六四）、円仁は数々の功績を残し、七一歳で入滅しました。円仁入滅二年後の貞観八年（八六六）、清和天皇からその功績に対し、「慈覚大師」の諡号（注6）を、宗祖最澄は「伝教大師」の諡号を賜りました。この二人が日本で最初に大師号を戴いた僧侶です。因みに空海が「弘法大師」の諡号を醍醐天皇から戴いたのは、五五年後の延喜二年（九二二）のことです。

円仁が著した「入唐求法巡礼行記」は世界三大旅行記の一つと言われています。一つは、玄奘三蔵の「大唐西域記」、もう一つは、マルコ・ポーロの「東方見聞録」です。「大唐西域記」は、玄奘三蔵が六二九～六四五年、長安を出発し、天山北路を経てインドに入り、ナンドララの寺で学び、仏像・仏舍利・經典等を得て長安に帰る途の一七七年間の記録です。しかし、これは玄奘三蔵が書いたものではな

く、帰国後、皇帝の命で弟子の弁機に伝え纏めさせた書です。

「東方見聞録」は、一二七一一二九五年、ベニスに生れたマルコ・ポーロが、貿易商の父に連れられ元で皇帝に仕え、元での生活とその往復二四年の記録です。しかし、これもマルコ・ポーロ自身は書いていません。ポーロが帰国すると、故国ベニスではジェノヴァの戦いに敗れ、ポーロは捕虜として投獄されました。獄中で、物語作家のルステイケ口がポーロの体験談を筆録したものです。

円仁自身が直接見聞したことを、その時に自ら記録している「入唐求法巡礼行記」は三大旅行記の中で歴史的評価が群を抜いて高いと言われています。当時の仏教寺院・国民の生活・政治経済の様子・遺跡の状態等多方面の詳細な記録は、中国にも残されていないため歴史的価値が高いのです。

この「入唐求法巡礼行記」の存在を、世界の歴史学会に広めたのはライシャワー元駐日大使（一九一〇～九〇注7）です。同大使は、ハーバード大学の東洋学教授でした。

注1 御前立 ご本尊の前に安置し、礼拝する仏像

注2 巡錫 僧が錫杖を持ち各地で、教えを広める

注3 求法 仏の教え・悟りの道を求めること

注4 勅命 天皇の命令

注5 座主 大寺を統括する最高位の僧職

注6 諡号 貴人・僧侶等に、死後、生前の行いを尊び、天皇から贈られる称号、贈り名

注7 ライシャワー 米国の歴史学者、ハーバード大学東洋史教授

（参考文献・資料）

入唐求法巡礼行記 塩入良道校注 平凡社発行
台泉納談抄 齋藤圓眞著 山喜房佛書林発行
天台宗祖大法要「求法人慈覚大師円仁」
日本大百科全書、ブリタニカ国際大百科事典
牛嶋神社由緒書、浅草寺由緒書・ホームページ
如意輪寺ホームページ他

【会 員 投 稿】

再び、大変困っている。令和2年に発覚した消えた町会資産総額の6割が回収出来たので、4年近く経つてようやく町会長が臨時総会を開いたが、定足数不足で総会不成立。現実に百万円以上の現金が戻ってこないから「一応めでたし！めでたし！」とは行かない。もちろん責任者として道義的な責任も明確にしないと信頼を失ってしまう。

区役所に相談すると再発防止策として法人化を教示されたので、実現させる良い機会だ。近隣町会も対応した法人化に異を唱えていては、余程不都合な事があるのか、まったく反省していないのかと邪推されてしまうだろう。

現町会長最初の総会は消えた積立金を無視して作成した決算書を回覧して未承認のまま、3年目の総会は10月に決算書配布後、突然の中止で同じく未承認、4年目は不手際で2回も総会を開き定足数不足。秋の臨時総会も同様で不成立。役員会は年3回程度で、周辺が激変する環境でもなとなく現状維持、今後も具体策が無く、次期町会長の養成も不明瞭。

前町会長は、当町会は3期6年が慣例なので交代すると退任した。慣例に従えば残り1年2か月。この状態で町会長は一体何がしたいのだろうか？（MS）

編集後記は紙面の都合で中止しました。

